

港区立郷土歴史館

歴史館だより

企画展「匠の世界」より
桐^{きり}削^{くり}物の名工、中^{なか}墓^{だい}瑞^{ずい}真^{しん}野口 朋子
(学芸員)

桐木地二十四弁輪花盛器 (当館蔵)

リズムカルな輪花^{りんか}からのびるなだらかな稜線^{りょうせん}と桐材の木目の美しさ。人の手で造りだされた線と自然が生み出した線が融合し、端正な器を形づくっています。素木仕上げが清涼感をかもしだし、手にするとその軽さに驚かされます。

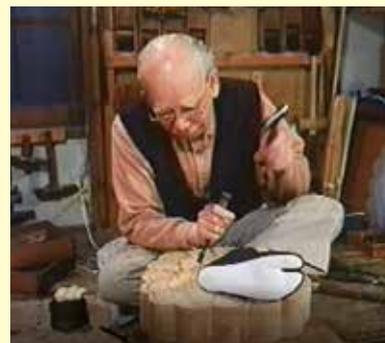
この盛器^{もりき}の作者は中墓瑞真（大正元（1912）年～平成14（2002）年）。重要無形文化財保持者（人間国宝）で、港区で長らく制作活動を行った木工芸家です。千葉県に生まれ、13歳の時上京し、指物師竹内不山に師事し茶道関係の指物（柄を使って板材を組み立てる技法）等を学びました。23歳で独立し港区西久保巴町（現在の港区虎ノ門三丁目）に工房を構えたのち、大日本茶道学会会長の田中仙樵^{たなかせんしゅう}に茶道の規定やものづくりの心構えを学んだといいます。最初期は茶の湯の棚などの指物を制作しましたが、のちに削物を意欲的に手がけるようになり、幾多の名品をつくりだしました。昭和30年代以降、日本伝統工芸展で受賞を重ね、同展鑑審査委員、日本工芸会理事及び木工部会長を歴任し、長く木工芸界を牽引しました。

削物とは無垢材の一木^{のみ}を鑿^{かん}で削り出し、鉋^{かんな}や小刀で器を成形するものです。シンプルな技法だけに、器の厚みや形状、地肌の仕上げなど、作家の技量と

感覚が如実にあらわれます。もちろん大量生産はできず、すべて一点一点、手作業で作ります。中墓が特に好んで用いた桐という木材は、桐箆^{きり}で知られるように火災や水害に強く狂いが少ないという特性を持ちますが、軟らかなため、平滑に美しく仕上げることは難しいといえます。しかし中墓は桐削物に独自の世界を見出し、「桐削物の名工」と称されました。特に好んだのは冒頭で紹介したような、花卉を連ねる輪花の器です。削物でしか作りだすことのできない繊細で複雑な曲面は、大小さまざまな鑿や鉋、小刀を駆使して表現します。中墓は晩年、「生活のために茶道具を作り、

展示会用や後継者養成のために削物を手がける」と語っています（平成8（1996）年12月11日 読売新聞）。

中墓は昭和59（1984）年、72歳の時に重要無形文化財「木工芸」保持者、いわゆる人間国宝に認定され、3年後には港区区政功労者表彰を受賞、平成9（1997）年には港区名誉区民顕彰を受賞しました。港区が誇るこの作家を、当館（旧港区立郷土資料館）では過去4回にわたる展示会で顕彰してきました。このたびの企画展「匠の世界」では、同じく港区で活躍し同時代を生きた彫金家服部雅永の作品とともに、18年ぶりに中墓の作品を展示します。棚物などの指物、得意とした桐削物といった作品のみならず、中墓が愛用し、時には自ら手がけ改良した制作道具や木型も合わせて展示し、制作工程を記録した映像を紹介し、これを通して中墓作品とその創造の過程に触れていただけましたら幸いです。



仕事場での作業風景



港区立郷土歴史館

歴史館だより

令和2年度 新指定文化財

石田 七奈子
(学芸員)

港区は、文化財保護条例が施行された昭和54(1979)年以降、毎年数件ずつ文化財指定を行っています。今年度も新たに建造物1件、歴史資料2件の計3件を指定しましたので紹介します。



明月軒

1 建造物 旧畠山一清邸 翠庵・明月軒・沙那庵・浄楽亭・毘沙門堂 5棟

畠山記念館に建つ建造物です。この5棟は株式会社荻原製作所の創立者である畠山一清(明治14(1881)年～昭和46(1971)年)の自邸として建築されました。茶と能を趣味としていた畠山は、昭和12年にこの敷地を取得、数寄屋大工の木村清兵衛に依頼して自分好みの茶室を多数建築し、自邸の増改築を繰り返しました。この畠山一清邸は、戦前から戦後にかけて活躍した実業家の生活空間を今に残しています。数寄屋大工による建築は、再現することが容易ではなく、貴重な建造物です。

※畠山記念館は長期休館中のため現在見学はできません。

2 歴史資料 東禅寺事件銀製メダル及び江幡家文書 32点

本資料は、銀製メダルと、これに関する史料を含む文書群です。文久元(1861)年5月28日夜、英国公使館だった東禅寺が襲撃されました(以下、東禅寺事件とする)。英国政府は、東禅寺事件の際に警護していた、幕府の外国御用出役の江幡吉平らへ感謝のメダルを贈りました。しかしメダルの授与は、不安定な政治情勢にあった幕末期にはかなわず、

明治22(1889)年、連絡の取れた55名へ渡されることになりました。事件当日に戦死した江幡へのメダルは同年7月10日に、娘のきくに授与されます。このときのメダルは本資料のほかに1点しか確認されていません(令和2年現在)。関連文書は、江幡吉平を靖国神社へ合祀する誓願書の下書なども含み、東禅寺事件だけでなく、事件に関するその後の近代社会の動向もうかがうことができます。



東禅寺事件銀製メダル(当館蔵)

3 歴史資料 紅葉館資料 2点

紅葉館は明治14(1881)年、純和風の社交場として開設された会員制の高級料亭です。外国の賓客の接待や政財界、海軍関係者の懇親の場として賑わいました。また、港区にゆかりのある尾崎紅葉らが創立した文学結社の硯友社など、文人の交流の舞台としても知られています。しかし、昭和20(1945)年3月の東京大空襲で焼失しました。本資料は、紅葉館の跡地を取得し、そこに東京タワーを建設した日本電波塔株式会社(現株式会社 TOKYO TOWER)に伝わりました。開設前年の明治13年から株式会社化する直前の同43年まで30年間にわたり紅葉館で作成・受領された書類468件を綴じた簿冊と明治13年の営業方法見込書の2点に分かれています。多くの著名人が集った場でありながら資料が乏しい同館の実態を知ることができる資料です。

願伺書類綴込
(寄託、株式会社 TOKYO TOWER 所有)